



FB うつのみや理事インタビュー

困窮している人の気軽な相談場所 フードバンクと医療とのつながりを

●武井 大さん (理事、協立診療所・医師)

◆患者に寄り添える治療を目指して

私は栃木保健医療協同組合(医療生協)の協立診療所で医師として働いています。医大生の時に協立診療所を研修先として選んだ縁もあって、卒業後9年間東京都職員として都の僻地や離島の診療所で働いたのち協立診療所で働くことを選択しました。私は大きな病院で働くというよりも、患者と膝を突き合わせ寄り添える治療を行うことができる診療所で働きたいと望んだからです。

◆食品で応援するフードバンク 治療を提供する無料定額診療

フードバンク(FB)との関係は2012年に医療生協で無料定額診療を行うようになってから深まったように思います。お金が無くて困窮している人は病院に相談するよりもFBに相談するでしょう。FBで相談を聞く時に体調不良の話が出れば、無料定額診療を受けるアドバイスをすることができます。その結果、病院に行くことができれば、病状が悪化する前に治療することができます。

逆に診療所は患者さんから治療費が払えない相談を受ければ、FBにつなげて食の確保をすることが可能です。以前は災害備蓄品を1日分しか渡すことができませんでしたが、今は食品が豊富なFBにつなげられる安心感を強く感じています。



◆地域の身近なセーフティネットに期待

今私が望むものは、まちの保健室とFBの機能を備えた、気軽に行ける場所。診療所の近くにこういった場所があると、早期に治療につながったり、生活保護につながれたりする可能性が高まると思います。そのようなセーフティネットの出現に期待しており、今後も協力したいと思っています。

●武井理事は、熱い思いを持ちながらも優しくFBを見守ってくれる存在です。これからもよろしくお願ひします、武井大先生。

(インタビューした人：理事長 徳山篤)

ボランティアのつぶやき
下山貴彦さん (27)

社会問題は身近な生活につながっている。 まずは一緒に知ろう！

ボランティアの魅力は、経験を積むことができること。さらに「自分が必要とされている」と感じられるときにやりがいを感じます。

以前、行政で税金に関わる部署で勤めていました。市民の皆さんに税金を納めていただくことが仕事ですが、様々な理由から納税できない人がおり、コロナ禍でさらに顕著になったように感じます。どうして貧困に陥ってしまうのか。FBボランティアをする中で、目の前の困っている人を支えること、そして貧困の原因とな

る根本を立て直すことが必要だと改めて感じます。

社会問題に全く関心のない人はいないと思っています。どんなことも、身近な生活につながっています。しかし、NPOが何をしているかわからない人も多いと思います。ボランティアで関わったり、自宅にある食べきれない食品を寄贈し、困っている人に届けたりすることができます。まずは一緒に「知る」ことから始めてみませんか？



今月のSOS

FB相談世帯数（食品提供回数）

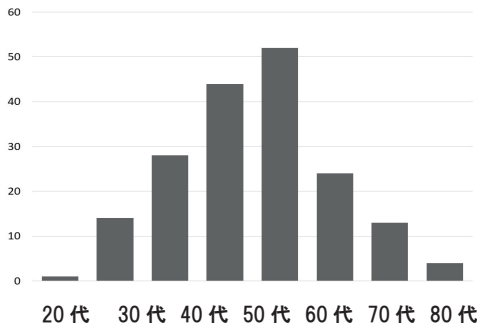
4月 100世帯（支援142回）

5月 130世帯（支援181回）

FB主な利用理由(2022/4-5)*複数回答・総数●人

低収入・ 低年金	失業・就職	病気・ 障がい	
	98	31	
109	精神 疾患	家賃 滞納	子育て・介護
	28	31	10
			金銭管理
			DV・ 離婚
			14

FB年代別 相談者数(2022/4-5)



50代以上で仕事
が見つからない
人が多いです

たくさん子ども
がいる子育て世
帯は大変です

今月のSOSの一部

※FB利用者の状況を一部加工して抜粋掲載。

4月 100世帯（複数支援142回）

4/5 ● AK 男 40代・宇都宮市。体調を崩して退職。知人のついでで転職するも、**仲介料として金品家財を詐取**され無一文。以前勤めていた会社が住居と仕事を用意してくれたので、妻と2人で宇都宮に移住。⇒米10kg食品12kg日用品支援

4/19 ● DT 男 60代・宇都宮市。仙台から宇都宮に来て**路上生活10日**。宮ハローワークに行き寮付きの仕事が見つかったが給料が入るまでの1週間一切食べ物がない。⇒食品4kg支援

4/21 ● SS 男 50代・宇都宮市。居酒屋バイトで生計を立てていたがコロナ禍の影響で出勤日数が減り困窮。社会福祉協議会からの**貸付金は使い果たし**、バイトの収入も増えず困窮状態に戻ってしまった。⇒食品3kg支援

4/22 ● TS 男 50代・宇都宮市。12万の月収でいつもは**ぎりぎり生活**できていたが、着ていた服がボロになったので新しく購入したらお金が無くなってしまった。**人とのつながりが無く、孤独**も苦しんでいる。⇒食品3kg支援

4/23 ● KF 女 30代・宇都宮市。**親子でコロナ感染**。検査した病院に保健所からの連絡待つよう言われたが連絡が来ないので身動きが取れず、買い物にも行けない。⇒食品4kgを支援（緊急に自宅へ直接配送）

4/28 ● R0 男 50代・宇都宮市。**うつ病**が悪化し、勤務先を3月に退職。6月には障害年金、雇用保険基本手当が入るが手元にお金が無くなってしまった。生活保護は利用したくないので、再就職を目指す。⇒米3kg食品7kg支援

5月 130世帯（複数支援181回）

5/10 ● ST 男 50代・宇都宮市。山形で働いていたが人間関係が悪化し退職。寮を出なければならず、出身地に近い宇都宮に来た。**車上生活をしながら仕事探し**をしたがダメだった。山形に戻ろうと思うが食べ物を買うお金がない。⇒食品6kg支援

5/12 ● MA 女 50代・宇都宮市。DVで離

FBでたすかりました

母の医療費のため働いて、ビザ失効 大学もやめ、体調も悪く…

Mさん
(25歳 / バングラデシュ)

バングラデシュ国籍です。高校を出て日本語学校に入り、日本の大学に入学しました。バングラデシュにいる母が糖尿病になり、医療費が必要だったので必死でアルバイトをして送金してたんなんです。そうしたら留学ビザのアルバイト就労時間（週28時間まで）を超えて働いてしまい、ビザが失効してしまいました。大学も途中でやめました。生活費を友人から借金する日々。そんなときにFBを知って、何度か食品をもらっていました。

そのうち両眼に違和感を感じるようになり、赤く炎症してしまったのですが、保険証がないので病院には行けません。FBで相談したら無料低額診療所を紹介されて、大きな病院に紹介状を書いてもらった時も無料低額診療で見てもらえました。今は就労ビザを申請中です。食品だけでなく、体のことでもFBに助けられました。



SOSの途中

■「車上生活している人がいる」

連休前のある日、FB 日光より電話があった。道の駅の駐車場で車上生活を送っている人がいる。仕事を探しに千葉方面まで出かけているが、なかなか決まらないそうだ。何よりも居所が決まらず FB の食品の支援だけでは男性の生活が成り立たないとのこと。その男性・栗林さんが FB うつのみやに來所したのが 5 月中旬であった。

■派遣社員として職を転々と

8 年前までは宇都宮市で派遣社員として自動車関係の工場や研究所に勤めていた。その時に検診で血糖値が高く糖尿病を指摘されている。その後の 2 年間は別の派遣会社に登録、放射線測定管理の技術を学び、埼玉県内で仕事をしていた。

それからは派遣会社の命令により 6 年間、福島県内の除染作業における放射線管理の仕事が続けた。福島での仕事がきつ、体重が大幅に落ちたそうだ。そのせいか血糖値は正常値を維持していたとのこと。

■頼れる人がいない。仕事も見つからない

昨年 10 月、体調を崩し実父が亡くなったこともあり、福島での仕事を辞め栃木に戻ってきた。国民健康保険や雇用保険基本手当の手続きのため、亡き父が苔の販売をしていた店舗兼作業小屋がある借地で住民登録した。しかし、そこには



小澤勇治 ● 本会職員

20 歳代の義弟が生活していたためとても住める状況ではなく、やむを得ず車上生活が始まる。

雇用保険の支給が終了し手持ち金が無くなる 4 月には、FB 日光を利用するようになった。ハローワーク紹介の仕事探しも 50 代後半という年齢ではなかなか見つからず、日光市役所での生活相談では、無料低額宿泊所の提案がされ、まずは雨風をしのぐようにと言われた。

■体調を整えて、しっかり働きたい

このような話をしてくれた栗林さんは、体調をきちんと管理して働きたいと希望していた。そこでまずは、心配な糖尿病の医療的な状態把握と他に治療必要な疾患がないか、無料低額診療事業に相談し、早速診療所を受診していただいた。並行して、知り合いの大家さんにアパートの空室がないか尋ねた。

ここで、栗林さんには「10 ~ 20 年先を見据えたときに、生活保護を利用して体調管理を充分に行える条件を整えた後に、しっかりと仕事探しをした方が生活再建の確実な道である」と話し納得してもらった。幸いにも大家さんの協力で部屋が借りられることがわかり、その住所で生活保護の申請が認められた。生活保護の開始決定までの食品支援とたまたま寄付された布団があったので使ってもらった。

8 ヶ月もの車上生活に終わりが来た。早々と仕事探しの面接を数回こなした。栗林さんの生活は続く。

婚。精神障害あり。子供は4人いるが、現在は末娘と2人暮らし。生活保護が切れてしまい、1 か月前から A 型事業所を利用し始めたが月末にしかお金が入らずに困窮。障害基礎年金の申請中。⇒米 5 kg 食品 4 kg 生理用品支援

5/13 ● KT 男 70 代・宇都宮市。姉の葬儀で岩手に帰省したことで出費がかさみ。次の年金支給までの 1 か月を 1 万円ですごさなければならなくなった。家賃は待ってもらっている。⇒米 3 kg 食品 5 kg 支援

5/17 ● TT 男 20 代・宇都宮市。妻と就学前の子ども 2 人の 4 人家族。日払いの仕事についているが仕事が無く困窮。別の仕事を探しているが見つからない。⇒米 10 kg 食品 9kg 支援

5/24 ● JT 女 50 代・宇都宮市。2 年ぶりに出所。すぐに生活保護を申請。新しいアパートには家具、調理器具など生活用品はまだ何も無い。保護費が入るまでの食品が欲しい。⇒食品 7 kg 日用品支援

5/24 ● KM 女 20 代・宇都宮市。バイト収入 3 ~ 6 万と不安定。5 年前に離婚し、ひとり親世帯として子ども 4 人と生活。児童扶養手当と給料でしのいでいる。市役所に相談したが、使える制度が無い。⇒米 10 kg 食品 9 kg 支援

5/27 ● YG 男 30 代・宇都宮市。2 か月前に失業。離婚しており養育費は月 10 万円。貯金も底をつき困窮。2 日間何も食べていない⇒米 5 kg 食品 5 kg 支援

5/27 ● TM 女 40 代・宇都宮市。コロナ禍の影響で失職。子ども 6 人を一

人で育てなくてはならないので家業を手伝ったり、夜のバイトをしたが 1 年前にうつ病を発症し仕事ができなくなった。昨日生活保護の申請をした。⇒米 20 kg 食品 20 kg 日用品支援



「食品欲しい」は共通でも、困っている背景はさまざま。どうしたら、生活再建できるのでしょうか…?

フードバンク応援団!



きずなBOXで地域のたすけあいを

末日聖徒イエス・キリスト教会

宇都宮市にある教会では、食品回収箱(きずなBOX)とFB通信を設置していただいています。「教会だけでなくかしよう」ということではなく地域の団体と連携し、地域社会への貢献を行っています。いつもきずなBOXを通じた食品寄贈のご協力をありがとうございます。

取材日はちょうどミサを行った後、年代ごと部屋に分かれて勉強会を行っていました。話を聞いていて驚いたのは、各家庭で「食品貯蔵」を勧めていること。「人を助けるためにまず自立する」という考えに基づいて、いざという時のために貯蔵を行っているそうです。身近に困った人がいた場合は分け合うこともあるとのこと。フードバンクは社会の食品貯蔵庫なので、個人の力でもどうにもならないときは気軽に利用していただきたい、と思いました。

●軽部さん、福田さん、お話を聞かせていただき、ありがとうございました!(宮坂)

フードバンク情報誌 創刊しました

栃木県内で運営に奔走するFBスタッフの想いが詰まった情報誌『特集!とちぎのフードバンク』ができました!民間のセーフティネットとして地域に必要とされ始め、栃木県内にも10団体以上が活動しています。どんな想いで活動がはじまったのか?活動の特徴やほしいものは?「子どもに食べさせられないことが、どれだけ苦しく、悲しく、切ないか。動かずにはいられない」現場で感じた切実な想いも綴られています。

創刊号は、FBあしかが、FBうつのみや、FBもおか、FB県北、FB那須烏山、FB日光にインタビューしました。続々と「冊子が欲しい」の声が届いています。気になる方はぜひご連絡、ご来訪お待ちしております。FBを応援したい人、情報が欲しい人に行き届きますように。



▼下野新聞に掲載



きずなの食品配布会 34世帯に

6月25日に実施した「きずなの食品配布会」は、泉が丘支所でお米や乾麺を中心に食品を提供しました。34世帯に、食品を提供しました。コロナ禍での失業や、子育て、不安定な労働環境にいる人・学生など、様々な事情で生活が苦しい人に、少しでも生活の一助となれば、ということで開催しました。また、つながりサポート事業の一環で、必要な人には生理用品も渡しました。今後も偶数月に配布会を行う予定です。継続して行うためには、皆様からの食品や活動資金のご寄付が必要です。引き続き、ご協力をお願いします。



チャリティ ウォーク 今年も開催

「栃木の助け合いはフードバンクから。」毎年恒例のチャリティイベントの「チャリティウォーク」を今年も開催決定しました。10/11に県北コース、10/8に宇都宮コースを予定しています。それぞれ約20kmの道のりをみんなで歩いて、FBを応援します。参加費はすべて県内FBへの寄付となり、困窮者支援と食品ロス削減の活動に充てられます。8月頃から参加受付。気持ちいい秋空の下、歩きませんか!ぜひご参加を!

●運営ボランティア募集!会議:第2,4土曜日 15時~。お問合せは028-622-0021まで。

FBボランティア募集

●問/028-348-3412

おさがるに ご連絡ください

- ・相談聞き取りボランティア★大募集
FBに「食品ほしい」と来る人の話を聞きシートに記入します。不安な人は研修も受けられます。1回2時間、週1・2回程度。
- ・パソコン入力ボランティア
食品の入庫・出庫伝票のデータをパソコンに打ち込みます。週1回程度。
- ・食品回収ボランティア★大募集
スーパーや施設へきずなボックスの食品の回収のために車を運転します。月2~4回。
- ・食品管理ボランティア
入庫した食品の賞味期限を確認し、期限ごとに食品棚に並べます。相談者へ渡す食品も準備します。週に1~2日、3時間位が目安。

会員・寄付者 ありがとうございます♡



6/25現在:正会員52人、賛助150人、団体8、学生3)

《4~5月の新規・継続会員》※敬称略

■正会員/羽石洋子、大森敏臣、笠倉衣里子、加藤秀子、塩野目剛亮、小野定、加藤裕子、泉満弘、市村頼一、安藤佳代、松本佑司、星宮有子、並木孝夫、漆原秀彦、木下一成、西岡隆、北岡吉民、木下朗、吉原さつき、牧岡健、佐藤ひとみ、飯塚真弘、千嶋巖、北村里香、小島玲子 ■賛助会員/鈴木実、赤堀和彦、松尾美智子、小林淳子、大塚光江、大川もゆる、伊藤和樹、柏崎和枝、松本広子 ■団体会員/児童自立援助ホームしもつけ ■学生サポーター/池澤美月

《4~5月の寄付者》※敬称略

沼尾泰子、加藤裕子、小林茂之、榊八洋フーズ、岩坂瑞彬、鈴木登、恵光寺、山中節子、高橋めぐ美、生出建一、小島玲子、宇賀神文雄

「もったいない」を 「ありがとう」に。 会員を大募集中! ボランティアも

◆会費(年間)

- ◎正会員 12,000円
- ◎賛助会員 3,000円
- ◎団体会員 30,000円
- ◎学生サポーター 1,000円

会費・寄付はこちら ※匿名希望の方はご連絡ください

■銀行

栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399

名義/特定非営利活動法人フードバンクうつのみや 理事徳山篤
※領収書発行のため、メールか電話で、氏名と連絡先をご一報ください。

■郵便局

宇都宮 00260-2-90882

特定非営利活動法人フードバンクうつのみや

■Webサイトから

クレジットカードでのご寄付もできます。



HP



Twitter